

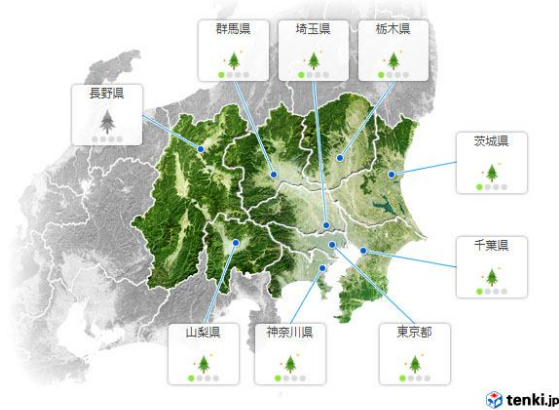
「スギ花粉の初飛来」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

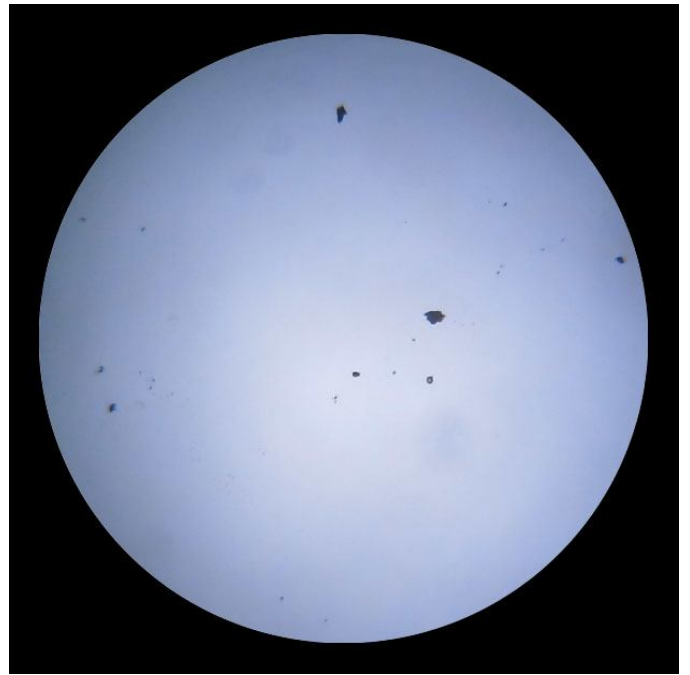
今年は暖かい日が多く、スギ花粉の飛来も平年よりも早まると予報されていた。私にとってスギ花粉は「学習材」としての価値以外に特に気にすることのない存在だ。しかし同僚の何人かは、すでに症状が現れだして、特に晴れた日は実につらそうにしている。



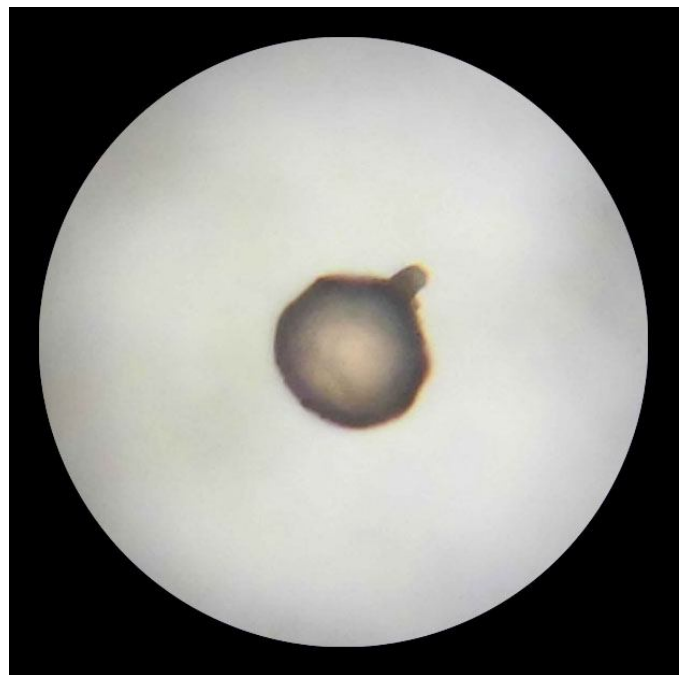
日本気象協会のホームページには、毎日の花粉情報が公開されている。関東はまだ「少ない」のレベルだが、「少ない」ということは、少しは飛び始めていることを意味している。



しかし「本当にスギ花粉が飛んでいるのか」を確かめたくするのが理科の教師だ。「観測できないものは事実とは言えない」という科学の基本を考え、私はスギ花粉を「観測」することにした。方法はいたって単純で、きれいにしたスライドを、教室テラスの壁の上にしばらく置くだけである。



30分後にさっそく顕微鏡で観察してみた。風媒花であるスギの花粉は、大きさが $30\mu\text{m}$ (0.03mm)程度しかない。 $(\mu\text{m}=\text{マイクロメートル})$ 髪の毛の直径の半分以下の大きさだ。100倍に拡大しても鉱物の結晶や、その他の雑多なホコリと見分けが難しい。それでも慣れてくると、明らかに全縁の丸い物体を探し出せるようになる。



これが今シーズンの「初スギ花粉」である。幸いスギ花粉は、形態的な特徴がはっきりしていて見間違えることはない。400倍で観察すると、スギ花粉には突起のようなものが見られる。角度によっては、リンゴの果実のようにも見える。この日、スライド上で発見した花粉は、わずか2粒だった。しかし、スギの花粉は確かに飛来を始めている証拠をつかめた。